もくじ

店・店舗・ショップ …… 4
茶屋・喫茶店・カフェ …… 6
庭・庭園・ガーデン …… 8
宿屋・旅館・ホテル …… 10
芝居小屋・劇場・シアター …… 12
高い柱・塔・タワー …… 14
板前・料理長・シェフ …… 16
師匠・教師・インストラクター …… 18
受け持ち・担当者・スタッフ …… 20
瓦版屋・記者・ジャーナリスト …… 22
駕籠かき・運転手・ドライバー …… 24
日本語の「表と裏」（のんびりとグズ・親切とおせっかい） …… 26
ろうそく・電灯・LEDライト …… 28
落書き・戯画・漫画・コミック …… 30
競い合い・競技会・コンクール …… 32
見世物・曲芸・サーカス …… 34
銭・現金・キャッシュ …… 36
前払い・後払い・信用販売・クレジット …… 38
取り消す・解約・キャンセル …… 40
入れ物・容器・ケース …… 42
油・石油・オイル …… 44
日本語のジェンダー表現（男のことばと女のことば） …… 46

まえがき

「和語・漢語・外来語」第２巻は大きく「社会編」としました。その中では「職業」として既に歴史から姿を消した「瓦版屋」「駕籠かき」なども取り上げています。さあ、漢語や外来語ではどんな表現になっていると思いますか？

「道具」の分類でも同様です。「入れ物」は「容器」「ケース」になり、「釜」は「炊飯器」（漢語）、「クッカー」（外来語）になっているのです。

和語・漢語・外来語の移り変わりは日本社会そのものの変化を反映しています。「銭」ではキャッシュレス決済まで進んでいる現代を取り上げましたが、五十銭銅貨は1953年まで使われていました。今からたった70年前です。

「建築」では「高い柱」「タワー」を取り上げました。縄文時代・弥生時代の遺跡を見学すると必ず高い柱を立てた跡が見つかります。京都の「東寺の五重塔」は高さが55メートルもあります。みなさんも修学旅行などで見る機会があると思います。

「場所」の分類の中では「庭」「庭園」「ガーデン」を取り上げています。この３種の表現は現代日本語でも使い分けされています。

「僕の家には小さな庭があって春になると桜が咲くんだよ」「わたしの祖父の別荘には庭園があって、池や石灯籠もあるよ」「わたしの家はマンションで庭も庭園もないけど、マンションには誰でも入れるグリーンガーデンがある」

やはり人間にとって自然を感じることは大切ですね！

佐々木 瑞枝

店

和語

漢語

外来語

ボクは東京郊外の駅の近くに住んでいます。ボクがまだ幼稚園に通っていた頃、近所には本屋、靴屋、乾物屋、お菓子屋、八百屋、肉屋などの個人経営のお店がたくさんあり、お店の人からも「おかえり」などと声をかけてもらったものです。

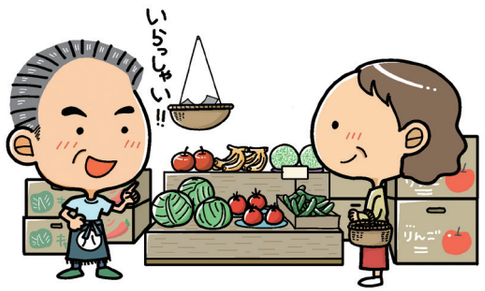
ところがボクが小学校に入学する頃、駅前は再開発され、顔なじみだったお店はなくなり、代わりに大型店舗が二つもできたのです。大型店舗の地下には食料品が並ぶスーパーがあり、二階には本のコーナーや靴のコーナーなどがあり、もう店の人の顔は見られなくなりました。

小学校高学年になった今は、大型店舗の中にコーヒーショップやペットショップができ、休日はいつも人でいっぱいです。裏通りにはリサイクルショップまであります。これから街はどう変わっていくのでしょう。

店

和語

「店」は一般的な商業施設で、「書店」「食料品店」のように一般の人が日常的に買い物できる場所です。「店番」という単語が存在するのは、「店」には常に誰かがいて、お客さんの相手をする必要があるからです。「店」の語源は平安末期頃からある「見世棚」（台を高くして商品を見せるための棚）と言われています。



店舗

漢語

「この喫茶店はたった10年で日本全国30店舗にもなりました」のように「店舗」は店とは違って営業する場所自体を指します。ですから「空き店舗・貸店舗あります」という広告もあれば、時には「居抜き店舗貸します」という広告もあります。「居抜き店舗」とは、飲食店によくありますが、経営者が廃業しても、店内の設備や内装そのままで、すぐ営業できる状態にある店舗のことです。

ショップ

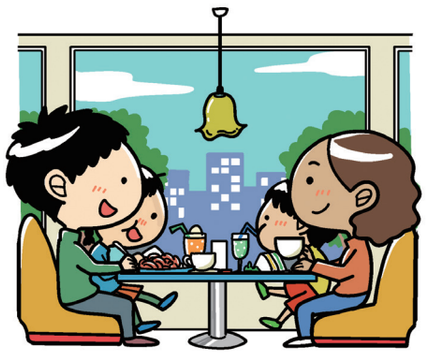
外来語

英語のShopから来た言葉で明治時代から使われています。ペットショップやコーヒーショップなど、商品を買う場所のことです。また、洋服から食料品、大工道具や植木に至るまで「オンラインショップ」で買う人も増えています。時間の節約になることや品揃えが豊富なことが、現代人の需要にマッチしているからでしょう。

茶屋　和語

明治から昭和初期にかけて「芝居茶屋」というものが存在しました。「芝居茶屋」は劇場の近くにあり、観劇を終えたお客さんが立ち寄ってお茶やお菓子・軽食を楽しむ場所でした。「芝居茶屋」は劇場の上等席（今のS席）を買い占めておいて、お茶・お弁当付きで観覧席の切符を販売しました。良い席で観劇したい人は「芝居茶屋」を通すしかなかったのです。

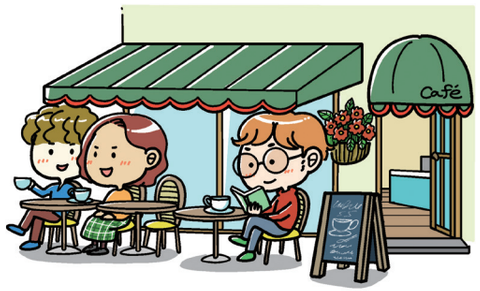
喫茶店　漢語



ちょっと休憩したい、仕事の打ち合わせをしたい、そういう時に喫茶店が存在するのは大人にとって有り難いものです。今日本には喫茶店が約6万軒もあり、いちばん多いのは大阪府です。チェーン店はたいてい出すものが決まっています。たまごサンドやマカロニグラタンなら子どもにでも良さそうです。でも大人といっしょに行きましょうね。喫茶店は子どもどうしで行くところではありませんから。

カフェ　外来語

カフェはフランス語のcaféから来た外来語です。フランスのパリでは店先に張り出し屋根をつけて、椅子やテーブルを並べ、コーヒーを出すカフェがあちこちにあります。「ストリートカフェ」と言います。ヨーロッパでは同様のスタイルのカフェが多く見られ、街の空間に溶け込んでいます。「カフェ」の方が「喫茶店」よりおしゃれなイメージかもしれません。



茶屋　和語

喫茶店　漢語

カフェ　外来語

お茶（緑茶）は奈良時代から平安時代初期頃、遣唐使や僧侶が中国から持ち帰ったものです。当時お茶は非常に貴重なもので、限られた人しか口にすることができませんでした。お茶が全国に広まり庶民の口にも入るようになったのは、室町時代の頃からです。江戸時代、庶民の休憩用の場所「茶屋」が道沿いにあり、人々はお茶や団子などを楽しむことができました。

「喫茶店」は主にコーヒーを楽しむ場所で、「茶」という字が使われていても「緑茶」を出す店ではありません。コーヒーが日本に輸入されはじめたのは幕末の頃で、「喫茶店」が現代のような形になったのは明治時代です。当時のコーヒーの値段は一杯一銭五厘。ちなみに蕎麦は八厘でした。

「カフェ」は、もともとはヨーロッパ圏で使われた言葉で、「喫茶店」と同じ意味です。コーヒーの発祥地であるエチオピアのKafaから「カフェ」と変化したものです。

注：一銭は今の二百円くらい、一厘は一銭の十分の一で二十円くらい。